

## 令和7年度学位記授与式 式辞

皆様、卒業及び修了、大変おめでとうございます。

本日は、学部において235名が卒業し、理工学の学士の学位記を受け取りました。大学院においては52名が修了し、理工学の修士及び博士の学位記を受領いたしました。誠におめでとうございます。本学の教職員を代表しまして、心からお祝い申し上げます。また、皆さんをこれまで励まし支えてくれたご家族の方々にも、お祝いの気持ちをお伝えしたいと思います。

本日は年度末の大変お忙しい中、千歳市長 横田 隆一様、千歳市議会議長 松倉 美加様、衆議院議員 和田 義明様、本学同窓会会長 金野 徹様。その他、北海道議会及び千歳市議会の議員の皆様、千歳市役所、本学関連の企業、及び教育機関の方々にもご来賓としてお迎えすることができました。誠にあつく感謝申し上げます。

本日は、卒業生・修了生の皆さんにとって人生の大きな節目としてかけがえのない式典であり、またご家族の皆様もその晴れの日を楽しみにしておられたことと存じます。この日を迎えられたことは、私ども一同、大変な喜びであります。卒業生・修了生の皆さんには、これからも健康と安全を保ち、新年度からの新たな環境で、ご活躍いただけることを、祈念しております。

例年、この卒業・修了の席でお話をさせていただいている建学の精神について、最初にお話をしたいと思います。平成10年、本学が千歳市による公設民営の大学として、開学した際に、初代学長である佐々木 敬介先生が謳われた、「人格陶冶」、「人知還流」という言葉についてです。

「人格陶冶」とは、ひとりひとりが、人間として正しい生き方を追求し、自らを常に発展させ、いかなる場合でも人間として正しい行動が取れるように自己研鑽することを意味します。優れた倫理観・道徳観で、向上心を高く持ち、前向きに生きて頂きたいということです。

「人知還流」とは、大学で学んだ皆さんが、そこで得られた知恵を、広く社会に役立てること。それにより、社会全体が発展し、より良い世界とすすむ。結果として、その社会の中で、新しい知恵や知識が育ち、それをまた我々が学ぶ。このような、知恵の循環を意味しています。

我々の住む、今の世界を見てみると、いろいろな地域で衝突が発生し、悲惨な戦争・紛争が広がっています。争いのない社会を作ろうとして、異なる思想

同士が争ってしまう。大変残念ではありますが、それが現実となっています。また、いくつかの地域では、グローバル化を進めたために、社会や経済が弱ったということで、ブロック化やローカリズムといった反グローバル化が少しずつ拡大しています。世界の多くの場所で、様々な状況が発生しており、何が正しくて、間違いなのか、自分はどう考えるべきか、なかなか悩ましいのではないかと感じます。

本学は、国際性の涵養や、グローバルな感覚を獲得すべく、新しい教育プログラムや事業を進めており、この数年で、20を超える海外大学との国際連携協定を締結しました。本日卒業・修了される皆さんの多くは、今後、国を超えて、様々な仕事、事業を進めることとなると思います。つまり、その悩ましい状況に直面することとなります。その時に必要なことは、生活のスタイルが異なるだけではなく、倫理観や道徳観も違う、色々な人が大勢いることを理解し、その中で、自分の考えや意見を正しく伝え、建設的なコミュニケーションを構築することが重要です。そのためには、相手の立場も理解しながら、自分の立場を説明する努力が必要です。そのために大切なことは、有益な情報を常に獲得し、その情報を自分で活用できることです。現在は、情報があらゆる形で入手できます。テレビや新聞の報道だけではなく、インターネットを通して、多くの情報を獲得できる時代です。その中から、正確な情報、信じられる情報を見抜いて、それを活用する情報力を今後とも、強くしていただきたいと思います。皆さんの前には無限の可能性が広がっています。本学での学びを礎に、それぞれの分野で社会に貢献されることを期待しています。

本日卒業される皆さんは、データサイエンスや人工知能(AI)の基礎や応用を学び、その上で、DX領域やGX領域に広がる研究活動を進めてきました。また、理工学部から大学院に進学する皆さんは、この中の専門分野における研究をさらに進め、新しい知識や技術の獲得を目指すこととなります。

最近の経済産業省からの統計データによると、2040年頃における日本における専門職人材の不足数が、181万人。特に、AIやロボットを利活用できる人材、いわゆる高度DX人材に至っては、339万人不足すると予測されています。その中で、理工系の大学卒業者、大学院卒業者の不足数は、123万人となっていました。2040年は遠い話ではありません、すでに皆さんの持つ知識は、これからの社会にとって、大変貴重で、その期待も大変大きいということをぜひ認識していただきたいと思います。

新しい環境においても、自らの専門分野にこだわらず、色々なものに興味を持って、そこから新しい知識を獲得して、イノベーションを見出す力を育ててほしいと思います。また、理工学部と理工学研究科から、企業に就職をする皆さんについては、取り巻く世界が大きく変化するとは思いますが、自らが獲得した知識を活用し、社会に貢献していただきたいと思います。

最後に、自分の力を信じ、自信をもって自らの世界を切り開いて行かれることを心から祈念し、私からの式辞に代えたいと思います。皆様の、今後の発展を期待しております。

本日は、誠におめでとうございます。

令和8年3月21日  
公立千歳科学技術大学長  
宮永喜一